

2) カーネーション

(1) 耕種的防除法等

病 害 虫 名	防 除 適 期	防 除 方 法	備 考
萎凋細菌病	挿芽前 生育中	○ 挿芽床、仮植床、定植床の土壌消毒を行う。 (「土壌消毒」の項 参照) ○ 連作しない。 ○ 発病株から挿穂を取らない。 ○ 発病株は、抜き取って適切に処分する。	
黒 斑 病	植付時 生育中	○ 密植を避ける。 ○ 窒素質肥料の過用を避ける。 ○ 罹病葉は早めに摘み取る。 ○ 摘心直後の降雨は発生を早める。	
さ び 病	挿芽前 植付時 生育中	○ 発病株から挿穂を取らない。 ○ 排水を図り過湿を避ける。 ○ 窒素質肥料の過用を避ける。 ○ 被害葉は見つけ次第摘み取り、適切に処分する。	○ 赤系の品種は汚れが目立ちやすいので、その日の採花が終わってから散布する。
立 枯 病	挿芽前 定植時及び 活着後 生育中	○ 挿芽床、仮植床、定植床の土壌消毒を行う。 (「土壌消毒」の項 参照) ○ 連作しない。 ○ 発病株から挿穂を取らない。 ○ 発病株は、抜き取って適切に処分する。 ○ 花き類の登録薬剤を処理してもよい。 (「花き類・観葉植物の登録」の項 参照)	
灰色かび病	生育中	○ 施設栽培では、過湿にならないように管理する。 ○ 被害枝、花は早めに取り除く。	○ 品種によって薬害が生じる場合があるので注意する。
斑 点 病	生育中	○ 過度の灌水をしない。	○ ダコニール1000は花卉に薬液が付着すると漂白、退色などによる斑点を生じるおそれがあるので、着色期以降の散布は避ける。
モザイク病	植付前 生育中	○ 無病株から挿芽を取る。 ○ 採穂用親株は、寒冷紗で被覆する。 ○ アブラムシ類を防除する。	